

斬新な発想 次々と

第4回 九州未来アワード

学生起業アイデア部門大賞 崇城大学生物生命学部・Whodo(熊本市)

水耕栽培に光合成細菌を組み合わせ、成長が早く、栄養価の高い機能性野菜の栽培に成功した。水耕栽培のメリットは栽培速度、安全性、安定供給。そこに光合成細菌という微生物の力を合わせることで色素成分の一つ、カロテンが増え、栄養価が高まった。

代表の平田竜一さん(21)の実家は農業を営む。幼い頃から自家製の野菜を食べてきたが、一人で暮らし始めた途端、風邪をひきやすくなったという。市販の色の薄い野菜が原因の一つと考



学生起業アイデア部門で大賞を受賞した崇城大学生物生命学部・Whodoの平田竜一さん

水耕栽培に微生物の力

え、色の濃い野菜の栽培に取り組み始めた。「高血圧や糖尿病など、生活習慣病に悩む人たちの食生活改善に役立てば」と研究に没頭した。

熊本産のミニトマトを使った検証では、真っ赤に熟すまで露地なら3〜4カ月かかるところ、2カ月で完熟した。植物の成長促進は光合成細菌の働きの一つだが、平田さんは有害物質の分解作用と色素成分を増やす力にも着目。高品質、高栄養化を実現した。

水耕栽培は土地の条件を選ばないので、全国ど

こでも栽培、流通が可能だ。「量産化、流通化に向け、既存のECサイトと提携したい」。平田さんら研究チームは、次のステップに向け歩み始めている。

先輩に続くことができた

平田竜一さんの話 過去2回の大賞を大学の先輩たちが受賞したので、プレッシャーがあった。

「自分も続けたい」という気持ちの結果になってホッとする。量産化に向け、今後も具体的に進めていきたい。

先進的事業を披露

九州の特性を生かした革新的な事業や地方創生に取り組む企業・団体を表彰する「第4回九州未来アワード」が3月15日、鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルであった。1次審査を突破した企業6社と、優れた起業アイデアを持つ2大学の学生がそれぞれの活動や成果を発表した。約200人の来場者はファイナリストたちの斬新な発想を熱心に聞いた。



審査員や聴衆を前にプレゼンテーションするファイナリスト
＝鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテル

総評・講評 審査委員長・米倉誠一郎氏

本大会では各審査員が6社2大学のプレゼンテーションを講評し、審査員長の米倉誠一郎氏が総括した。

■総評

いろいろな賞を特別に用意するくらい、非常に接戦だった。重視したのは「九州」と「未来」という言葉。そこにより力を入れた企業を念頭に置いた。HALVOホールディングスは、火山灰シラスという九州の素材を使って安全な水を提供し、途上国の未来を変えることができる。大賞にふさわしかった。

学生部門も含めて、出場者のレベルが非常に高かった。このアワードは九州全体の祭りであり、ダイナミックな情報発信の場だと思う。観客だけでなく、多くの人を巻き込み、「自分もやってみよう」とこの人たちが手伝ってみよう」というムーブメントが湧き起れば、九州はより魅力的で先進的な地になるはずだ。

【崇城大学生物生命学部・WhodO】チームで分業し、モノが出来つつある。力を合わせて成果を上げてほしい。

【大分大学経済学部・板井瑠菜氏】

海外での事業展開を積極的に進める企業・団体、九州経済をけん引する先進事業者、起業への可能性が高いアイデアを提案した学生を表彰し、起業家らの挑戦意欲を喚起しよう。2015年から開いている。熊本日日新聞社など九州7新聞社が実行委員会をつくり主催。企業・団体部門に35、学生起業アイデア部門に14の応募があった。

審査員を務める法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科の米倉誠一郎教授が「地方再生には創造的対応を」と題し基調講演。人口減社会への向き合い方として「弱いところを嘆く前に九州の強みを見直し磨いていくことが大切。技術革新や優れた考え方を取り入れて新たな価値をつくるイノベーションを進め、生産性向上を図るべきだ」と強調した。企業・団体部門の大賞

主催：【九州未来アワード実行委員会】熊本日日新聞社、西日本新聞社、佐賀新聞社、長崎新聞社、大分合同新聞社、宮崎日日新聞社、南日本新聞社

後援：経済産業省九州経済産業局、九州商工会議所連合会、九州生産性本部、九州経済調査協会・BIZCOLI、九州経済同友会、九州経済連合会、熊本県、福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、宮崎県、鹿児島県

協賛：旭化成、中小機構九州、日本FP協会、日本BS放送

協力：日本能率協会総合研究所

は、鹿児島県内に広く分布する火山性土壌のシラスを主原料とする水質浄化剤を製造販売するHALVOホールディングス（工場・同県南さつま市、本社東京）が選ばれた。発表ではペットボトルに入れた泥水を透過通った水に変える実演を披露し目を引いた。土砂災害の原因とされ「厄介者」扱いのシラスを特殊技術で加工し、さまざまな浄化剤を開発。国内外の水質改善に貢献している点などが高く評価された。今回も優れた発表が多く、急ぎよ未来産業集積賞、ソーシャルイノベーション賞、特別功労賞の3特別賞が設けられた。学生起業アイデア部門は、水耕栽培に微生物の働きを融合し、栄養価の高い機能性野菜の量産化を模索している崇城大学（熊本市）生物生命学部・WhodO（フードウ）が大賞となった。

アイデアはすごく面白い。また1年生なのでどんなチャレンジしてほしい。

【QPS研究所】宇宙産業には細かいテクノロジーが必要で、九州で発達すれば裾野の広い産業集積が出来上がる。

【KIYORAきくち】炭酸水はありそうでなかったもの。設備販売への挑戦は、世界に広がる可能性が加速する。

【オファサポート】高齢ドライバーは社会的な問題で、サービスは社会的な価値がある。日本中に広げてもらいたい。

【AM】医療に早期発見、早期治療は欠かせず、遠隔治療にも役立つ。事業化につなげ、日本の医療に貢献してほしい。

【HALVOホールディングス】安全な水を簡単に作れる技術だけでなく、研究を30年続けた姿勢も素晴らしい。

【佐賀タンボール商会】社長の情熱は、ビジネスを始める人たちに勇気を与えてくれる。伝統工芸の力にもなるはずだ。